

○令和2年度の具体的な学校経営目標・計画

岡山県立東岡山工業高等学校

具体的な学校経営目標	具体的計画	担当分掌	各分掌による具体的計画	今年度の達成内容・基準	中間評価	最終達成状況と評価		
						最終達成状況	評価	
豊かな人間性の育成	○さわやかな挨拶・正しい言葉遣い・礼儀作法の習慣化にむけた取組の推進	生徒課	朝の挨拶運動をさらに定着化し、生徒会を中心に委員会・クラス・部活の参加、そしてPTA役員との積極的参加を呼びかける。	生徒が自発的にTPOに応じた挨拶が定着できるようになる。	B	B	生徒がTPOに応じるころまではできていないが、気持ちのよい挨拶ができるようになった。	B
		専門科	授業の開始・終了時の挨拶の徹底、マナー指導、返事の徹底、職員室入退室で正しい挨拶	学校生活のあらゆる場面でさわやかな挨拶・正しい礼儀作法が身につけている。	B		実習前の挨拶はよくできているが、日頃の挨拶は不十分な生徒もいる。	B
		学年団	朝礼・終礼・授業・集会での始まりで明るく気持ちよい挨拶を励行・習慣化、日頃からのこまめな声掛けの実施	限られた場面だけでなく、状況に応じた挨拶が自然にできるようになる。進路決定後も習慣化されている。	B		全体的に気持ちの良い挨拶ができています。TPOに応じた言葉遣いの指導を継続する。	B
	○ものづくり・資格取得・部活動・生徒会活動を通じて社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を身につける。	生徒課(特活)	部紹介を冊子を作成するなどして、部活動の活性化を図る。東スポを利用し、部活動の広報活動の充実を図る。	部活動への入部率が9割を超える。東スポの発行年間2回以上。	B	B	入部率は9割であった。東スポについては、インターハイ等の大会が中止となり発行できていない。	B
		資格推進部	資格取得を通して社会人基礎力を身につけさせる。	国家資格を3年間で30%の生徒が取得する。学年で受検する検定には80%が合格する。	C		危険物取扱者試験(10月実施) 乙1(2/6)33%、乙2(5/8)63%、乙3(2/3)67%、乙4(15/105)14%、乙5(6/8)75%、乙6(2/6)33%甲(0/3)0% 消防設備士 乙4(2/6)33%甲種(2/4)50% リスニング英検(291名受検)1級5名、2級17名、3級70名 情報技術検定 2級(37/77)48% 3級(202/237)85% 電気工事士 第1種筆記(7/8)88%実技(6/7)86% 第2種筆記(75/89)84%実技(56/75)75% 溶接技能評価試験 専門級(3/3)100%基本級(11/34)32%	
		専門科	資格取得の奨励、部活動・生徒会活動・各種コンテストへの積極的な参加	生徒自ら進んでものづくりができるようになる。計画的な資格取得や積極的な部活動・生徒会活動への取組がある。	B		ものづくりに関しては、目的意識の差によって技術・技能の習得に個人差が生じている。	B
		図書課	全体的な蔵書数の増加を図り、進路資格に関する図書を充実させる。委員会活動が活発になるよう工夫する。	取り寄せをしなくても様々な分野の図書に対応できることが増え、検定以外の受験率が高い資格を軸に資格コーナーが充実している。委員会の活動が生徒主体で行われている。	A		5類、3類を中心に、今年度は1267冊購入。その他、進路パンフやDVDも寄贈受入。図書委員の読書クイズ、読書おみくじ、オススメ本展示、紹介動画撮影など、委員会活動も多数実施。	A
	○人権意識・公共心・規範意識の醸成	教育相談課	人権教育講演会の感想文を書かせ、生徒の理解状況を把握する。	感想文において、こちらが意図した反応が90%以上となる。	—	B	コロナ禍のため講演会は中止した。代替措置として6月に実施した人権LHRについては、生徒の感想を読む限りではおおむねこちらの意図通りの成果があったと思われる。	B
		生徒課(生活)	いじめ・SNS等での問題意識をLHR・全体集会等で植え付け、意識の向上を図る。	問題行動が減少したり、未然に防ぐ。	B		特別指導案件は昨年度並みの件数であるが、全体としては落ち着いた生活を送ることができている。	B
		学年団	学校生活のあらゆる場面で人権意識向上のための指導を行う。校則や社会のルールを守らせ、自制心や気づきの大切さを理解させる。学校生活はチームプレーであることを意識させる。	学年やクラス全体で仲間を尊重し、いじめや不正行為を許さない集団ができていく。	B		学年・クラス・友人間の和を大切にしながら、学校生活を送ることができている。	B
		管理厚生課	清掃の徹底と美化委員の活性化を目指す。	5Sを意識した身の回りの環境を整えることにより自己管理能力が育ち安全な行動がとれるようになる。	B		清掃や身の回りの環境を整えることにより落ち着いた学習環境が保たれている。購買・食堂については、コロナ感染症の対策を行った。	A
		専門科	学校生活(授業・学級活動・部活動・科集会)を通して人としての在り方、相手を思いやる心を眼付かせる。	クラスにいじめ等がなく、生徒集団がコミュニケーションをベースに目標達成を目指した。人間性が高まり、社会に出る前の準備ができた。	B		徐々に成長を遂げているが、場面・状況によってはうまく対応できないことがある。	B
	○授業以外の学習時間充実にむけた取組の推進課題、レポート、資格学習)	教務課	OJT研修チームと連携し、授業展開やICT機器の効果的な活用法などを研究し、生徒が主体的に取り組む授業実践と基礎力の向上を促進する授業が展開できるよう支援する。	授業参観週間や公開授業週間の実施についてOJTチームと連携した実践的提案授業を2回以上企画する。	B	B	授業参観の実施は1回であったが、ICT推進委員と連携し、オンライン授業を12月に実施できたことにより授業実践への課題等を共有できた。	B
		OJT研修チーム	メンバー各自が授業実践の研究テーマを設定し、昨年度の研究に基づき、「東工」で身につける「学ぶ力」を具体化し、学習意欲の維持向上につながる取り組みを考える。	年間8回程度の校内研修を計画し、授業実践の工夫や効果的な教材・教具の開発などについて研究、協議をしている。	A		授業参観週間やオンライン授業の試み等、ICT活用の実践に関してチームを越えて研究ができ、研修を深めることができた。	A
		専門科	ICT機器の活用等で学習内容への興味を持たせ、分かりやすい授業展開に努める。体験的学習で身に付けた知識・技術を学校や地域で活用させる。	学習した知識や技術を校外でのイベントで積極的活用ができるようになる。調べ学習により、幅広い見識や知識を身に付ける。	B		レポートの提出が遅れた生徒にも、最終的には全員提出させるよう指導している。また、GsuiteやICT機器を授業に活用し、分かりやすい授業をしている。	B
共通教科		基礎的・基本的知識の定着をしっかりと行い、それらをもとに思考力・表現力の向上を図る。生徒が主体的に取り組める授業プリントを作成する。ICTを活用した授業改善を行い、分かりやすい授業作りに努める。遠隔授業の研究を行う。	小テスト等の実施によって生徒自身が取組課題を把握し、課題克服のための学習を行うことができる。遠隔授業を試行できた。	B	各自の学習課題をふまえ、主体的に取り組むために必要な支援を考え、実践している。オンライン授業を試行することができた。		A	
教務課		生徒の実態に応じ、課題の内容や分量など、与え方について各教科で検討し、家庭学習の充実を図る。インターネットを利用した授業等の動画配信を行い、授業内容の振り返り等ができるよう研究する。	基礎学力検討委員会と連携し、授業以外の学習に取り組める機会を学年や教科指導によって年間20回程度設けることができる。複数の教科で授業動画配信を行うことができた。	B	学年や教科の取り組みにより、1年で21%、2年で20%の生徒について学習時間が30分以上の増加が見られる。		B	
進路指導課		①基礎力診断テスト(全学年)の実施 ②SPI検査(3年)の実施	①基礎力(3年):2年次(S0人A2人B32人C100人D145人)より成績UP ②SPI(3年):平均40/70点満点以上	C	①S0人A2人B6人C86人D172人 ②中級25点上級16点		B	
学年団		小テスト対策、週末課題の取組、課題の提出指導等で学習の習慣化を図る、資格や検定試験への挑戦	資格取得・検定合格者の増加、課題の提出率の向上、一般常識の定着など	B	資格取得や提出物の状況はほぼ例年並みであった。		B	
資格推進部		技能検定受験に向け自宅学習の計画と放課後補習や外部講師の派遣依頼を実施する。	機械検査・旋盤加工・鍛造について自宅学習と講師による技術指導を交え定着を図る。	B	技能検定・機械加工・普通旋盤3級(11名)・機械検査3級(21名)が補習に取り組む。外部講師による指導を実施する。危険物乙4合格に向け補習を実施した。		B	
専門科		始業前や放課後の時間を有効活用し、学習への関心を持たせる。家庭学習の習慣化、資格・検定の充実で家庭学習増加、実習レポート・課題の提出と期限の厳守、実習室の活用、	学力向上や資格・検定の受検者が増加する。課題・レポートの提出期限が守られている。家庭学習の習慣が身につく。	B	多くの生徒が家庭での学習時間が足りていないが、課題・レポート等の提出の改善はできている。		B	
共通教科		家庭学習による基礎・基本の定着を図る。家庭学習に関する保護者のコメントを活用する。授業以外で取り組む学習課題を明示し、学習の習慣化を図る。	家庭で取り組む課題提出率(定期考査時)が90%以上である。	B	クラス担任の協力で、期限に遅れながらもほとんどの生徒が提出物を出した。		A	
図書課	図書館利用をさらに促進する。	館内の整備・設備等の改善・広報活動の強化により、多くの生徒が活発に利用し様々な分野に興味を持ち、年間貸出し1万冊以上を達成している。	A	コロナにより開館日数自体が減ったため、全体の貸出冊数は11746冊となり、ひと月あたりの貸出冊数は昨年度より2%増加。3類(進路含む)が61%増加、8類(作文等)が117%増加と、進路資格関係の本の利用は大幅に増加中である。	A			
○健康安全教育的充実(心身の健康増進、5s運動の推進、安心・安全教育的な教育環境を構築)	管理厚生課	・生徒保健委員会・学校薬剤師による環境衛生検査の実施と学習環境の改善。 ・性教育講演会・薬物乱用防止教育講演会・ネット依存アンケート・保健委員会の健康に関するアンケートを実施し理解度や生徒の実態から改善の手立てを講じる。	・各種環境衛生検査の基準をクリアできる。 ・講演会実施後感想文により、講演内容の「理解できた」が8割を超える。 ・各アンケートにより把握された健康課題に対し保健委員会活動が主体的に行われる。	B	B	・各種環境衛生検査を実施し、基準をクリアしていることを確認した。 ・新型コロナウイルス感染症の流行により講演会が中止した。 ・保健委員会活動は個人差はあるが概ね主体的に活動できた。	A	
	専門科	教室や実習室での5s運動の推進で、整理・整頓された学習環境を整備する。	学習効率や学習意欲が向上し、安心・安全な授業ができる。	B		年間を通じて5S運動を推進した。年度後半は、毎日の健康観察や体調不良者への早めの対処、感染防止徹底で大幅に体調を崩す生徒は居らず、健康管理はできていた。	B	
	保健体育科	教科保健の熱中症や応急手当の学習内容を教科体育と関連させ、体育の授業中における安全管理を実施・徹底できる環境づくりを行う。	体育の授業中に起きた熱中症や怪我による保健室利用数を昨年度よりも10~20%程度減少させる。(前年度体育授業中の外傷による保健室利用数は157回)	B		熱中症以外では大きな事故もなく1年を終えることができた。生徒の安全を第一に考えた授業環境をさらに整えられるよう検討していきたい。	A	

キャリア教育	○キャリア教育を推進し、一人ひとりの進路実現の充実を図る	進路指導課	キャリア・パスポートの試験的導入	目標：全学年での実施	B	B	年度末分を全学年で進行中である。	B	B
		専門科	進路講演会や工場見学・インターンシップ等を活用して、将来の進路について考えさせる場を提供する。計画的なキャリア教育を目指し、インターネットによる進路研究に取り組む。	個々の生徒に応じたインターンシップ参加やインターネットによる進路研究、工場見学等を活用した進路決定が行われた。	C		体験や学習の場が大幅に減り生徒には気の毒であったが、担任を中心に創意工夫し、できる限りの情報提供はできた。	B	
		学年団	適性検査・進路LHR・インターンシップ・キャリアパスポートなどを活用して、自分自身の進路について考えさせる。	生徒自身が自己の適性を把握し、進路決定に向けて行動できている。	B		各種の検査結果や行事等を通じて、自分の進路について考えることはできた。	B	
学校開かれたり 学校づくり	○地域連携・社会貢献活動・グローバル人材育成の充実と推進	総務課	各科等が実施するプロジェクトを効果的に情報発信する。	ブログの閲覧数が昨年度に比べ増加している。	B	B	コロナ禍において、情報発信数は減少しているが、一昨年より、閲覧数が多い。興味のある情報が発信できていた。	A	A
		生徒課(特活)	委員の生徒を中心に、クラスに積極的に広報活動をしていく。	年度末に全生徒が1年間に2回活動ができている。	B		学校行事等が中止の状況にあり、広報活動もできていない。	B	
		グローバル人材育成	地域の大学や外部機関と連携を図り、生徒が工業科での学びを活かしながら外国人と英語を使って活動する。	年に1回以上、講演会または地域の外国人とものづくり等を通じた交流会を実施する。	B		制約の多い中、中学校出前授業・国際理解講座・オンライン英会話導入など、形を変えて実施し、概ね達成できた。	A	
		専門科	近隣の小学校・中学校等に出向き出前授業を行う。留学生との交流会の実施。	生徒達が積極的参加し、地域貢献への意識の変化と達成感を感じる。英語を活用したコミュニケーション能力が向上した。	B		本年度は後半に、竜之口小学校と角山小学校で生徒が出前授業を行い好評であった。	B	
	○オープンスクール、HPをはじめとする積極的広報活動の充実	総務課	中学生の希望を反映したオープンスクールを実施する。スマートフォンでも閲覧しやすいHPを作成する。	体験に空きがなく、昨年度より多くの中学生が参加している。スマートフォンでも閲覧しやすいHPが完成している。	B	B	人数制限を設けたオープンスクールであったが、アンケート結果は好評だった。HPは他の業務の多い中現在制作中である。年度内の公開は難しい。次年度へ継続する。	A	B
		生徒課(地域貢献)	生徒会役員生徒が中心となり、学校行事等の広報活動をしていく。	総務課と連携し、HPなどに学校行事の活動を生徒の記事で紹介する。	B		コロナ感染拡大防止のため、全体での活動を自粛し、各部活動等での活動となった。	B	
		資格推進部	受験(受検)できる資格検定スケジュールをHPに掲載する	HPを更新する。資格のカレンダーを見やすく、科の推奨する資格を明確にする。	B		3回の便りを作成・配布した。	B	
		専門科	オープンスクールの見学や体験の内容をより充実させる。OS・文化祭・学校説明会・HP等により広報活動の充実を図る。	HP・OS・文化祭において生徒達がものづくりの楽しさや本校の魅力を中学生に向けてPRすることができる。	A		オープンスクールでは科としてPR活動に工夫を加えたが、年間をとおして継続したPR活動ができなかった。	B	
校内組織の活性化と人材育成	○学校組織の業務効率化の推進(分掌の見直し、勤務時間の軽減)	6科長会	各専門科で業務効率化に向けた取組を積極的に行う。	業務の効率化が進んだ。	B	B	6科長会ではChromebookを用い会議資料のペーパーレス化を図るなど、各専門科で業務効率化への取組が進んでいる。	B	A
		各分掌	情報の共有化や事業の精選などにより、業務の効率化を図る。	情報の共有化が進み、業務にあたる時間が短縮された。	B		日常の中で情報共有することで、会議形式を減らし、時間の有効活用、仕事の効率化につながった。	A	
		学年団	学年団会議の資料の事前配布等により、会議の進行を円滑に行う。	学年会議時間の短縮により生み出された時間を有効に活用することができる。	B		学年団等の協力により業務の効率化を進めることができ、情報共有もできた。	A	
	○OJTIによる人材育成・技術伝承の推進	OJT研修チーム	中堅教諭等資質向上研修対象者を中心として解決すべき学校課題に対して効果的な校内研修を適時に計画し、実践していく。	中堅教諭等資質向上研修対象者が若手育成を意識した校内研修を年間2回以上実施している。	A	A	中堅教諭等資質向上研修対象者を核とした校内研修が行われ、課題解決に向けて取り組むことができた。	A	A
		専門科	若手教員とベテラン教員がより良い人間関係を構築し、教育活動の展開を図る。	若手教員が実習や課題研究の授業で、生徒への指導が自信を持ってできるようになる。	B		情報交換はできているが、各分野に渡っての指導力向上のための講習等は全体として取り組むことができなかった。	B	
		学年団	各学年主任による話し合いの機会を多く持ち、お互いに連携し合って、学年の業務を遂行する。	連携により業務遂行力が向上し、どの学年でも統一した生徒対応ができている。	A		学年団内、他学年等との協力・連携・情報交換等により、業務遂行力が向上した。	A	
		各分掌	分掌内で担当業務の具体を共有し、課題解決を行いながら連携して業務を遂行する。	担当者が責任をもって業務を実施し、課題解決を図りながら、次年度への改善点を検討する。	B		課内分掌において担当業務の具体を共有し、課題解決や業務を遂行することができた。	A	